

## 会 議 録

会議名	平成24年度 第2回 丸亀市自治推進委員会
開催日時	平成24年10月16日(火) 午後6:30～8:35
開催場所	丸亀市役所 本館2階 第3会議室
出席者	<p>(出席委員)</p> <p>鹿子嶋 仁(会長)、大山 治彦、天野 裕子、秋山 朋子、 高木 明美(副会長)、岡田 宣明、秦 勉、平井 博士、仁科 清、 横田 富美枝、小阪 春南、杉江 邦夫</p> <p>(欠席委員)</p> <p>安部 章二郎、砂古 敏之、田尾 マツ子</p> <p>(事務局)</p> <p>企画財政部長 大林 諭、生活環境部長 笠井 建一 (政策課)課長 小山 隆史、副課長 渡辺 研介、担当長 吉崎 永吏 (地域振興課)課長 近藤 克彦、副課長 丸西 由美、担当長 岸上 直美</p>
議 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 協働推進計画について</li> <li>・ 前回の意見結果について</li> </ul>
傍聴者	なし
発言者	議事の概要及び発言の要旨
高木副会長	<p>会長が少し遅れるということで、会長が来られるまで私の方で議事を進めさせていただきます。本日の会議でございますが、委員総数15名中、11名の出席(会長を含めると12名)でありますので、会議は有効に成立しておりますことをご報告させていただきます。</p> <p>本日の議事は、「協働推進計画について」「前回の意見結果について」の2点です。</p> <p>最初に、「協働推進計画について」でございます。今後このテーマについて審議を進めていくというお話が事務局からありましたが、「協働」は、自治を進めていくうえで重要な課題となってきますので、十分に審議していきたいと思っております。</p> <p>それでは、事務局から説明をお願いいたします。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>事務局より説明</p> <p>前回の協働推進計画とこれまでの経緯、当該計画の検証 及び 今後実施予定の市民協働に係るアンケート(案)について説明</p> </div> <p>(鹿子嶋会長到着、出席者数12名)</p>

鹿子嶋会長	<p>ただ今の説明のとおり、第二次協働推進計画案は、この自治推進委員会に諮問される流れになっているようです。また、今回、第二次協働推進計画の策定にあたり、市民にアンケート調査を行いたいということで、アンケート(案)の説明がありました。これらのことについて、ご意見をお願いしたいと思いますが、その前に協働推進計画の見直しにあたっての一番の問題点について、現時点で丸亀市として思われているところを事務局の方でまとめていただけるとありがたいと思います。話を聞き限りいろいろ事業をやっていますので、その成果なども教えていただければ。</p>
生活環境部長	<p>この計画には、市民活動団体との協働がうたわれておりますが、市民活動団体には、つくられたばかりの団体から既に NPO 団体として活動が進んでいる団体とが混在しており、出来たばかりの市民活動団体と何を協働するのかという、そもそもの話がまとまっていかないということが状況としてあり、その一方で、NPO はいろいろな課題を抱えながら取り組んでおり、団体の主体性を保ちながら、どのようにやっていくかということがわれわれの考えていたことと大きく違っているということを感じました。</p> <p>また、市役所から多くの仕事を市民の方やコミュニティにふっていているという現状もございます。こういったものも大きな意味での協働と考えるならば、協働の相手先の考え方について、丸亀市の実情に合わせて、もう一度見直していくべきではないかという気もしております。</p> <p>そういう中で、これからの協働の現状と課題を分析し、相手先や施策の方向性を見出していくために、今回のアンケートを実施するのであり、一年という長い時間を考えているのもそういった理由からです。</p> <p>もう一度原点から考えることも含めまして、委員さんからも積極的にご意見をいただきたいと思っております。</p>
仁科委員	<p>いろいろな協働の事業がありますが、これらは一項目ごとにひとりの職員があたられているのか、それともひとりの職員がすべてを網羅して進めているのですか。</p> <p>もう一点として、配置転換などによる職員の異動があったとき、協働推進計画の十分な検証、引継ぎは出来ているのでしょうか。</p>
生活環境部長	<p>協働の担当は、地域振興課で基本的に3～4人体制で進めておりますが、それぞれの課での取組については、各課に1名ずつおります協働推進員に協力をお願いしています。また、丸亀市の最高意思決定機関である庁議の場で取組について説明し、各部各課への協力依頼もしています。</p> <p>次に職員の異動に伴う引継ぎについては、何年かいる間に新たな施策をやるとうしている職員もおりますが、それがうまく次に引き継げているかどうかはわかりません。ただし、市役所の組織として自治基本条例にもとづく考え方は進めてまいります。</p>

<p>大山委員</p>	<p>個別の施策の話ではなく、この推進計画自体が機能したのか、良かったのか悪かったのかという評価をしていただかないと、見直しようがないのではないかということ、会長が言われたのだと、私は解釈しました。</p> <p>例えば、3つの基本方針について、きちんと方針通りやれたのかどうか、協働推進計画「第 章 市の施策」として実施したことで、どのようなことに効果があって、どのようなことに効果がなかったのか。もっと詳しい例でいうと、実際に研修をやって、職員が啓発されて仕事が良くなったかどうかであり、私たちが聞きたいのは評価なのです。そのあたりを示していただいてから具体的な議論になるのだと思います。そういったことからお聞きしますが、この計画は機能したのですか。</p>
<p>生活環境部長</p>	<p>機能したかどうかということですが、機能するべく取組をしたというところが実際のところでございます。</p> <p>協働推進計画 P6～P8 に現状と課題として、非常に細かく区分して記載しておりますが、こういった小分けにより、断片的にそのものを何とかしなければならないという考え方もありまして、非常にやりにくい部分がありました。その中で私が一番困ったのは(5)市民団体という部分でございます。記載のとおり、確かに24のNPO法人が市内にありますが、私どもにアドバイスをいただける団体、こちらから働きかけをしてもなんの動きもない団体という具合にいろいろな団体があり、ここまで細分化したことが良かったのかどうか疑問です。</p> <p>そういったことで、現状と課題をここまで細分化して分析して取り組んでいくべきかどうかを検討している状況で、市としても細分化されたものを一つ一つつぶそうとして努力をしまいましたが、それがうまくいかなかったというのが感想です。</p> <p>その一方で、基本方針につきましては、協働を進めていくうえでは非常に重要なものであり、良かったのではないかと考えています。</p>
<p>大山委員</p>	<p>私が聞きたかったのは、カウンターパート(対応する相手方)のNPOがどうかということではなく、市役所が自己採点をした結果がどうかということです。</p> <p>これは、市の計画で、基本的にはまず市役所自身がやってみてどうか重要であり、さきほどうまくいかなかったという感想がありましたが、では、何が、どううまくいかなかったのかを聞きたいのです。NPOがどうだったかということはとりあえず置いておいていい話であると思います。</p> <p>ですから、例えば市が広報啓発活動をやって、何がうまくいって何がうまくいかなかったのか、研修をやってどこに効果があってどこに効果がなかったのか、まず聞きたいのは市の取組に対する評価であって、そうでなければ、この計画を見直そうと思っても何がうまくいっているのかわかりません。</p> <p>そもそも、この場合は、NPOに対して意見を言う場ではなく、市の附属機関としてやっている限り、私たちが気にすべきは市役所であると私は思うので、まずは市役所が自己考察をして、その内容を説明していただくことがスタートになるのかなと思って</p>

	<p>お聞きしています。</p> <p>例えば、第 章の( 1 )に「より多くの市民等が参加・参画出来るような仕組みをつくりまします。」とあったら、どういった仕組みが出来て参画が進んで、あるいはどこで進まなかったのかを聞きたいですし、( 2 )人材育成について、人材育成に努めた結果、どのような人材が育って仕事に活かされたのか、( 3 )活動基盤の整備について、コミュニティセンターの活用も含めて、基盤整備がどうされて、どう機能したかしなかったのか、機能しなかったのであればどこが問題なのか、相談窓口を設置したのであれば、どれくらいの件数があって、どんな相談をし、どんな情報が得られたのか。そういう資料がまずは提示されてから、私たちとして、見直しの議論が出来ると思うのですが、会長、いかがでしょうか。</p>
鹿子嶋会長	<p>私が先ほど申し上げたのは、大山委員と同様の趣旨でして、この委員会に協働推進計画を諮問され、いかに時間をかけたとしても、どこに焦点を置いて、どのようなやり方で望めばよいか、現時点では全くつかめない状況です。</p> <p>先ほどの説明では、「市民活動団体と果たして何を協働して行かうか。」や「そもそも協働とは何か。」とか、何か根本的な概念や基本的なところから見直した方が良いのではないかという趣旨に聞こえました。</p> <p>しかし、実効的な見直しということを考えてみると、大山委員も言われたように、われわれが対応しやすいのは、まず自己評価があって、出てきた問題点を変えるにはどうするかというように問題提起していただければ、議論しやすいと思いますが、協働とは何かというようなことを考え直すとなると大変難しくなってきます。</p>
政策課長	<p>今期のこの委員会では、初めて、見直しの時期を迎えております協働推進計画をお示しさせていただきましたが。これにつきましては、時間をかけて見直したいということです。委員会の中で、これまで市民参画などさまざまなことに関するご意見をいただいていたと思いますが、この計画に関しては、今回初めて見られる委員さんもおられると思いますので、市として、これから課題の分析や次の計画に向けての作業に取り掛かりたいということで、まずは本市の協働に関するありのままの状態を知っていただけるよう、今回お示しさせていただいております。</p>
鹿子嶋会長	<p>今日は、まさに頭だしという状況かと思えます。今後、第二次計画案の策定に向けた議論を進めていくこととなりますが、どういう形でその議論を進めていくかということをおある程度考えておかなければなりません。</p> <p>ひとつの案として、大山委員も言われたように、自己評価をして、何か具体的にこういった点がうまくいっていないというところをおある程度明確に出していただかないと、抽象的に見直しと言われても、どう議論をしたら良いかわからないということにもなりますので、出来れば自己評価的な情報も今後、出していただきたいと思えます。</p> <p>それから、根本的に協働の概念について考え直してもらえないかという話もありましたが、時間もありますし、コミュニティの関係や市民活動団体と当初ひとくくりに</p>

	<p>していたもので実情と離れているものについて考えるのも結構だと思います。</p> <p>ただし、そういった部分についても、もう少し具体的にしていきたいと思います。</p>
天野委員	<p>資料に「市民活動ステップアップ」の各年度の件数が記載されていますが、市民としては具体的な内容を知りたかったです。単年度か継続か、その結果どのような成果があがったかなどの資料があったら良かったと思います。</p>
鹿子嶋会長	<p>やはり数以外にも具体的にどういう効果があったか見られた方が良いですね。</p>
仁科委員	<p>私たち、一般公募の委員の任期は来年の5月までです。この見直しについては、あまりに時間が短すぎるし、唐突な提案ではないかなと感じます。</p>
政策課長	<p>委員会の今後の進め方としては、まずは次の計画に移るにあたって、前回の協働推進計画の総括をしたいと考えております。また、今期の委員の皆様は、来年5月までが任期となっておりますので、委員会の継続性の担保も考慮してまいります。</p> <p>そういったことで、今期の委員の皆様には、この前期計画の総括に関する意見をいただき、来年5月からの新たな任期の委員の皆様には、その内容を引き継ぎまして、次の計画の策定にあたっていただきたいと考えております。</p>
鹿子嶋会長	<p>そうしますと、われわれの目安としては、来年の5月あたりがひとつの区切りで、5月までは総括を中心に進めて、それ以降はそれを前提に第二次計画案の策定ということで考えてまいりたいと思います。</p>
高木副会長	<p>私も大山委員さんと同意見で、市の施策に関して、もう少し詳しい内容と結果を資料で示していただけたらと思います。その際には、「      をした。」ということも大事なのですが、問題点、出来ていないという部分を正直にあげていただいても構わないので、そこから考えていくような委員会になればいいなと思います。</p> <p>それから、プロジェクトチームや協働推進員の連絡会など、実際に市の体制がどうなっていて、どのように行われているかについても示していただけたらと思います。</p> <p>それと、市民団体ということが出てきましたが、私の中ではコミュニティもNPOも同じ協働のくくりであって、別のものという印象はありません。たぶん、協働の推進条例の中でもそのような位置づけであったと思います。</p>
大山委員	<p>以前にも言いましたが、こういうことをやっている自治体は少なく、丸亀市は良くやっているトップランナーだと思っております。フォーマットがないので起きることだと思うので、私はこのことについて別にマイナスであるとは思いません。むしろ、それにきちんと今まで対応していただいていたことを高く評価しておりますので、逆に言わせていただきます。</p> <p>そもそもアカウンタビリティ（説明責任）といったときは、もちろん受け手の側も</p>

	<p>資料を勉強しなければならないのですが、多くの場合、行政側がどうわかりやすい、きちんとした、意味のある情報を出すのかということだと思います。自治推進委員会はその練習の場であって、基本方針の「(2)情報の共有と連携」をどうしたら良いかという、ひとつのエクササイズと思っても良いと思いますので、今副会長が言われたようにしていただけたらと思います。今回、それが出てこなかったからダメということではなく、委員会をまた近いうちにやって、その時に出てくれば良いと思います。</p> <p>もう一点、副会長も言っていましたが、私は、NPO だけではなくて、いわゆる自治会・町内会こそが協働の主役ではないかと思っています。私が学術用語で第3セクターという言い方をしたために、誤解を生じさせたようですが、第3セクターとは市民セクターのことで、半官半民の企業体のことではありません。ですから、NPO や町内会などをすべて含めて、市民が関わる団体をひとつにして考えましょうということ、市のお考えについてここでも何回か投げかけを行ってききましたが、今日、部長さんのお話を聞いていて、今までの話は通じていなかったのかと少し残念に思いました。</p> <p>特に丸亀のような地方都市の場合、都会のようにNPO は生まれにくい、活動しないのではないのでしょうか。NPO のように見えても、実際は地縁団体がそういう活動を担っている可能性もありますので、それを分けるのは確かに意味がありません。むしろ、丸亀の場合、コミュニティや町内会、自治会をどうパートナーとして位置づけていくかについて、全体としてもう少し意識されてもいいのかなと思います。</p>
秋山委員	<p>協働推進計画について、おそらく、現状と課題について毎年検証してきたと思いますが、結局、いつも振り出しに戻るような気がしてなりません。</p> <p>この自治推進委員会では、協働で、市民と行政とが対等のパートナーとして、どれほど課題解決に向けてともに考え、協力してきたかということが一番大切な柱で、ぶれない点であって欲しいと思います。</p> <p>現状と課題は毎年変わってきますが、その点はすごく大事で、市民と行政がどれほどうまく何か出来たかという視点が一番分かりやすいですし、それでどうだったかという検証をすることがわれわれにとって一番わかりやすい方法で、市民の方にとっても、協働を身近に感じられるのではないのでしょうか。</p>
鹿子嶋会長	<p>やはり、実際に協働の推進が実感できるような見直しにしたいということは皆さんの思われているところだと思います。また、今回、アンケートについても事務局から資料の提示がありましたが、これについていかがでしょうか。</p>
岡田委員	<p>アンケートを今年中に出す予定なのであれば、このような質問事項で良いかどうか、今回議論する方が良いと思います。</p>
事務局	<p>このアンケートは、今日意見をいただいて、10月末から11月の初めくらいにアトラダムに市民の方3,000名を対象に郵送したいと考えています。</p>

秋山委員	<p>以前も意見させてもらったのですが、市民の方にこのアンケートが届いたとして、まず「協働」がわからないと思いますし、10項目くらいまでで良いのではないのでしょうか。わからない方は、どれくらいのボリュームかを先に見てから答えると思うのですが、はじめからわからないものに対して、何ページも答えていくことは非常に苦痛に感じる方も中にはおられると思います。もっと少なくとも良いのかなと思います。</p>
岡田委員	<p>一般的にアンケートの回収率はどれくらいなのか。</p>
政策課長	<p>アンケートの内容にもよりますが、項目数の多かった総合計画のアンケートの回収率は35.9%という状況でした。</p> <p>アンケートに関するこれまでの委員からのご意見も参考に、今回のアンケートは15問としておりますが、問1～問5までは回答者の属性の調査になっておりますので、どなたも簡単に答えられるかなという気はしています。</p> <p>どのアンケートもそうですが、次の計画につなげるにあたって、最低限聞くべきことは聞いておきたいということもあり、こういう形となっています。</p>
杉江委員	<p>前回の協働推進計画にアンケート結果が掲載されているのですが、全体数がなく、全部パーセント表示になっています。これは何分の何とした方がより具体的にわかるのではないのでしょうか。やはりパーセント表示の場合は、隠れている部分がありますので、そうした方が良いと思います。</p>
政策課長	<p>すべてを何分の何という表示にする方法もありますが、まずは、何人に対して調査をし、何人から回収したのかを表した方が良い気はしております。そのうえでこういったパーセンテージ表示があれば、大体のイメージもつかめると思います。</p>
鹿子嶋会長	<p>アンケートの項目数については、事務局で考えたうえのことであると思いますので、これが多すぎるのかどうかという判断はつきかねますね。</p>
大山委員	<p>こういったアンケートでは、普通回収率が3割くらいあれば良いという感じです。</p>
生活環境部長	<p>3,000人に出すと、統計的にたぶん回収が30～40%くらいということを見込んで、無作為抽出でアンケートを出すことで、地域の温度差を含めて、全体的なことを知りたいと思っています。</p>
大山委員	<p>社会調査を教えている立場から言いますと、通常アンケートをやる前には、アンケート項目をつくるために関係者にインタビューや面接調査をしてつくることがあると思います。もし、それをやっているのであればそれを出して欲しいし、やっていないのであれば、なんで実施しなかったのかということになります。</p>

	<p>これをパッと見たときに何がわかって、見直しに必要などんな情報が出てくるのか、いまひとつ役に立つ数字が出るとは読み取れませんでした。アンケートには、労力もお金もかかりますので、効果的なアンケートをつくらないと、つくる側も答える側も、もったいないと思いますので、効果的なアンケートをつくりたいものです。</p> <p>そうなってくると、まずはインタビュー調査、項目作りがあって、可能ならばプレテストとして一回やっていただいて、答えやすいのか、答えにくいのかを見る。それは、大学の中の学術的なステップなのですが、一応社会調査はそうした方が望ましいとされていますので、せっかく税金をかけてやるのであれば、本当はそういう形が良いと思います。そうでなければ、数字は集まったけれど、これはなんの数字？ということになってしまう気がします。まず、今回はどういう手順を経て、このアンケートはこの場にあがってきているのですか。</p>
仁科委員	<p>確かに、このアンケートを見ると、中身に深みがないような気がしますし、もう少し深く掘り下げたアンケートにして欲しいですね。</p>
鹿子嶋会長	<p>10月か11月のはじめというスケジュールを言われていましたけれども、ご意見にありましたように、せっかくアンケートをするのですから、もう少し有益な結果が得られるようなアンケートとするために、時期をずらして実施することは可能ですか。</p>
大山委員	<p>そもそも、抽出調査には、そんなに深いところまで聞くことが出来ないという限界はあるのですが、財政厳しい折に実施するのですから、もう少し丁寧に、役に立つ調査をやっても良いのではないのでしょうか。</p> <p>前期計画の際の市民協働に関する調査とどう違うのか、そこからどうしたのか、それからさらに、関係者にインタビューをしてというのが、社会調査のステップとしては一般的だと思うので、今までの手順はどうでしたかというのが先ほどの私の質問なのですが、今、どういう手続きを踏んでここに出てきているのですか。</p>
事務局	<p>今回のアンケートは、協働推進計画について市民の方がどのように感じられているかを確認するためのものということで、地域振興課の中で検討してつくったもので、インタビュー調査などはしていません。</p>
大山委員	<p>では、これで地域振興課の意図している統計はとれるということですか。</p>
事務局	<p>今現在の協働推進計画が十分なものかどうかを検証したうえで次のステップに移りたいということで、こういったアンケートとさせていただきました。</p> <p>項目についても、ご意見にありましたようにあまり増やすことも出来ませんので、方針や施策など最低限のことを入れさせていただいています。</p>

岡田委員	これはやってみないとわかりませんね。やったら何かの方向はつかめるのではないのでしょうか。
大山委員	<p>ひとつの観点として、これは税金を使って行う調査であり、投資効率の良い調査なのかということです。確かに調査はやるべきものですが、税収が大変な中で、やはり投資効率の良い調査をするという視点について、市民の方も市役所もそろそろ意識をしても良いのかなと思います。</p> <p>今回、地域振興課として、これで調査項目として十分、これでやりたいということであれば、それはそれで良いし、お金があるときはやれば何か得られるだろうで良いのですが、今後、やはりそういうことは考えていく必要があります</p> <p>また、答える労力もそうですが、協働は市民に負担をかけることなので、先ほどの項目数も含めて、できるだけ市民に負担をかけない方法があるのであれば、それに越したことはないと思います。</p> <p>無駄ということではないのですが、もう少し準備があっても良かったのかなと思います。あと、これは皆さんにお聞きしたいのですが、通常、質問集をつくる際には、個人情報を知る「フェイス」と呼ばれる項目は頭には持ってこないように、大学で指導しています。</p> <p>ひとつは、表紙にあるとプライバシーの問題があるので中に持ってくるということ、もうひとつは、いきなり自分のことを聞かれると答えにくいだろうということで最後にということなのですが、今回、こういうテーマですので、むしろこちらの方が答えやすいということであれば、先に進む要因にもなります。皆さんは最初とそうでないのとどちらが良いのでしょうか。</p>
鹿子嶋会長	感覚的な問題となりますし、中身もあまり個人に関わるものでもありませんので、私ははじめに属性を聞かれても構わないと思います。
横田委員	内容が協働ということで、協働という言葉に馴染みのない方にとっては、最初からわからないことを聞かれるよりは、最初に答えやすいことを聞かれた方が進みやすいかもしれませんね。
平井委員	性別、年齢は必要なのでしょうか。少なくともこの協働に関して性別は関係ないものであって、年齢もそんなに幅広くは出てこないと思いますので、必要ないような気がします。もう一度、問いかけについて、もう少しこの場で皆さんに意見を出していただいて、発送しても良いのではないのでしょうか。
天野委員	このアンケートはこのまま出すのですよね。受け取る側の立場に立ってみると、最初に市民協働アンケート調査とあって、「これは何？」という感じがしますし、第二次協働推進計画を策定につて、経過の説明もないので、「第一次があったの？」というふ

	うに受け取られるのではないのでしょうか。第1次の計画にこういう問題点があって、こういうことを進めていきたいという説明が不足しているような気がしますし、もっと説明があっても良いのではないのでしょうか。
仁科委員	協働は広報に掲載しておりますし、全く知らないことはないと思いますので、これが来てびっくりすることはないのではないのでしょうか。
平井委員	しかし、広報を読んでいる全員が全員、その隅々まで読んでいるか、割合がある程度確認出来ているのであれば、今のお話で結構だと思うのですが、今回は無作為抽出の調査で、全員が全員広報を読んでいるわけでもないです。ですから、初めての方が読まれる可能性があるのであれば、これだけの説明では足りないので、やはりもう少し協働とは何かという説明は必要だと思います。
天野委員	私も所属する団体の中で協働という言葉を使ったことがあるのですが、認知度は低いと思います。
岡田委員	なんとなく言葉のみ知っている方が多い印象はありますね。
高木副会長	このアンケートの目的は、市民の方がどう考えられているのかを知りたいということでしたが、これが届いたときに、市民の方にある程度の知識や情報がなければ、なかなか答えることは難しいと思います。 また、市民活動団体やNPOなどの協働に関わる方に対する意見聴取を考えているのかお聞きしたいと思います。もし、考えられているのであれば、第 3 章の市の施策に関する現状等を示して、それに対する意見をもらった方が計画に活かせるのかなと思ったのですが、その点はいかがでしょう。
仁科委員	コミュニティなど、現に関わっている団体に聞いた方が生活に密着した回答が得られるような気がしますね。
鹿子嶋会長	ある程度、団体を絞るということであれば、事前調査としてあまりお金もかかりませんし、あった方が良いのは確かですので、委員会としては、そのあたり検討していただけたらありがたいと思います。
政策課長	これまでのご意見を踏まえまして、アンケートをもう一度検討し、出来れば年内にもう一度この会を開催して、再度、案をお示しさせていただいてから、アンケートを行うという形にしていきたいと思います。
生活環境部長	私どもが把握している範囲の団体につきましては、個別のヒアリングをして進めていこうと思っています。やはり協働というものを広めていくためには、既存の団体か

	<p>らの周知と、私どもがやりますという姿勢が必要であるということもご意見いただきましたので、その両面から進めていきたいと思ひます。また、アンケートの内容につきましても、目的や経過などがわかるような形で検討出来ればと思ひますし、団体からのアンケート調査によるヒアリングなどにより、こういうことを聞いた方が良いということがあれば、検討しながら動いてまいりたいと思ひます。</p>
鹿子嶋会長	<p>意見聴取はアンケート調査に限るものではありませんので、実際に有益な情報が得られる方法でやっていただければ良いと思ひますのでよろしくお願ひします。</p>
鹿子嶋会長	<p>次の議題ですが、前回の意見結果の集約ということで、その内容について事務局より説明をお願いします。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">事務局より説明 委員から提出いただいた「委員の固定化」「女性委員の参加を増やすには」というテーマに関するご意見の集約結果について説明</p> </div>
横田委員	<p>ツイッターについて、私自身、坂出市のツイッターを見ることがあります。市の行事の情報や火災の情報など、わりと広範囲に入ってきますし、災害時に「ここが水没しています」などの情報がタイムリーに入ってくるので便利だということで、私も最近はじめたのですが、丸亀市の情報にはたどり着けません。私がたどりつけていないだけなのか、丸亀市ではケーブルテレビがその役割を担っているからなのかはわかりませんが、災害の部分ではそういったものもあつたら良いと思ひます。</p>
事務局	<p>丸亀市では、実際にまだ取り組んでいないというのが現状です。</p>
鹿子嶋会長	<p>話に聞く限り、情報の伝達速度はすごいので、災害時にはかなり有効な伝達手段であると思ひますね。</p>
政策課長	<p>ツイッターやフェイスブックを活用している自治体もありますし、所管は他の課になるのですが、こういう時代の流れの中でそういったことも検討する必要があるのかなと思ひております。</p>
横田委員	<p>ツイッターは信憑性という点では落ちますけれども、他市では災害時に、「この橋がいま水没している」といった市民が見かけた危険な状態などの情報が速く入つたということをお聞きました。</p>
鹿子嶋会長	<p>今回、商店街でのダンボール遊園地というイベントのチラシをいただきましたが、こういった商店街でのイベント・企画はまちづくりの中で重要なことです。</p> <p>災害だけではなく、こういった催し物にはツイッターは有効であり、意外と市民間</p>

大山委員

の関係を築くにはツイッターなどは大切だと思います。有名人が来ているといった情報もすぐに流れたりしますので。

こういうチラシをいただくと、この頃はツイッター、ブログページやホームページの URL が載っていたりするのですが、問い合わせ先のメールアドレスも載っていないのですね。こういったものは、イベントに協力いただいている穴吹デザインカレッジの学生さんや会社の人やミモカなどの外郭団体に頼って、やってもらってもいいのではないかという気もします。

今、市立の資料館でおもちゃ展をやっていますが、せっかくいいことをやっているのですから、ああいうものもやってもらったら良いのにと外側から見て思います。

あと、今回、アンケートに対する回答として「担当課からの回答」という項目を設けていただいているのですが、どこの課が回答したのかがわかりません。課が答えましたと書くほうが親切で、実際にやり取りしている気になりますし、そもそもどこが担当しているのかについて私たちも知ることが出来ます。

これは非常に微妙なところはあるのですが、課ではなく課長だれだれなど、市民に意見を聞くときは個人名を聞くのですから、回答するときも個人名で回答するのも対等なのではないかなと思いますので、この点をご検討ください。

少なくとも、今回の資料は、「担当課」ではなく、「政策課」「地域振興課」というふうには是非やっていただきたいです。

それで、この回答を見ていてなるほどと思うのですが、あまり具体的に書いてくれないのですね。例えば、1 ページ目の(1)の回答として、「動員要請については、十分に検討してから要請するように各課にお願いしています。」とありますが、では具体的にどんなガイドラインでどんな要請をしているかがありません。そういう具体的な部分があるほうがちゃんと答えていただいているような気がします。

学生には、エントリーシートを書くときに具体性もなく、「十分に」などの表現は意味がないので書いてはいけないと教えていますが、この回答はそういった形になっています。やはり、市民が求めているのはこういうことではなくて、もう少し具体的なことではないかと思います。

検討するのであれば大体いつ頃までに検討するのかを書いていただくのが本当の答えなのかなと思いますし、先ほどのツイッターもいつごろやるかを検討するというのではなく、検討しなければならないなあということですよ。

ですから、次回の自治推進委員会までに検討しますとか、やはり期限を切るということもある程度大切だと思います。期限を切れないものもあることはわかりませんが、出来れば可能な限りそうしてもらいたいですし、特にこの会での回答に関しては期限を設定してもらいたいです。

こういった意見に対する回答を出していること自体がすごく良いことで、さらにそれに対して上を要求するのは酷かもしれませんが、せっかく頑張っている取り組んでいるので、もうひとつ上を期待して要求したいと思います。

鹿子嶋会長	<p>言いにくいかもしれませんが、出来ないのであれば、こういう状況でできないとありのままを言っていただいても結構ですよね。この場合は良い情報よりも悪い情報を出していただいた方が有意義な会になりそうですし。</p>
大山委員	<p>こちらとしても、「無理」と言っていただけた方が、代替案などの提案がしやすくなります。「やります」と言われると「待ち」になりますからね。</p>
仁科委員	<p>そのとおりです。私の意見に対する回答も、「努めていきます」「考えています」など、答えのない答えになっています。</p>
天野委員	<p>市議会での答弁も同じような感じですね。</p>
政策課長	<p>行政の縦割りと言われるとそれまでなのですが、実際にひとつの事柄であっても、いろいろな部署にまたがっており、なかなか一担当の判断でいついつまでという期限は正直言いにくいという部分があります。ですから、そういった中でも具体的な回答は必要であると思っておりますので、できるだけ答えられる範囲内ではお答えしていきたいと思っております。</p>
鹿子嶋会長	<p>いまの、縦割りの状況もあってうまく答えられないというのは非常に有益な回答であると思いますし、なるほどそういう状況なのだと思えます。「具体的にこの話を進めようとするときにはこの課が」というような話もしていただければありがたいですね。</p>
大山委員	<p>各課の名称がずらずらと並んでいることはわれわれにとっては重要な情報です。</p>
政策課長	<p>おっしゃられるとおり、担当課名については書くべきであると思っておりますので、対応させていただきます。</p>
鹿子嶋会長	<p>今回は年内の開催ということですが、今回の結果をもとに、今後どのように進めていくのかについて事務局と私のほうで相談させていただきたいと思っております。</p> <p>それでは、本日はありがとうございました。</p>